津田文庫
文庫1
1764
5

早稲田大学
圖書館藏書

つだ文庫

010190605308

[illegible]今竹生嶋よ来清
[illegible]川家の文[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

釣舟のとまりをしらせよ　平
こがらしに釣舟のとま
りをしらせよ　俊成
竹生島
鴨の羽にあられ降しかさ
なれば　雪の
白たへの袖
ちるまでおもひ
ゆきてあはぬ
うらとはしらじ　紀

竹生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三行

あらはいくばくはれらへひさうの通
ちるべきとうすてにくの美社舟す
天にくと人能とばき神人殿及
ひるうわもいやまさりくまるうる
ぶりぞやかひ鴉の女人きんぜいと社
ぶりそはおまけるの女人何さて来

三行

きくひぞ　そいたちぬ人のが事
まそぶ和をひ鴉ハ九生れ来ばさ
いんなまべとるの女人社来人れ
ハ　ハ　ハ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

作生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 竹生 [illegible] 八終

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てまひするゆふぐれのいろ〳〵に物さ
のかぜゆゑりのあるまそひに紅ふかき紅葉
和よくてうぢ紅葉とも色帯ひとすん
とゝのへ、まくいろ　わふまちやせる
ーーー

朝長

[illegible]

源の義とのゝぞ[illegible]ゝる袖の花もと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人と見てとせの[illegible]ふ清信の源とあり
し移ん時よ帰ひ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]人よ
てまし海とそ　早行　さんいもい移も
ひ清ゆりひ[illegible]そいひ清弘帰ひ
しさんひ[illegible]もとありていゆり
ひとあひ[illegible]ひ[illegible]枕移も清あい
あひ人とて海しまたそ　早　もい移
も乃清めひ[illegible]ひ[illegible]とひ[illegible]そい
ひ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]清弘ひ[illegible]ひ[illegible]十
うさん水あまりひ移乃姿とあくい
ぞくあもあり下ひ清弘帰ひ[illegible]
ひつもたひ[illegible]ん弘乃ゆりとひ出

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

女
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

朝長

五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仕られし経盛門とひとりとなりぬ
のくにうるはしくもあらぬ
はるばるまで入るふぜい
はるばるまで遠田金王丸とやらんぞ
武者とぞ
見れば
あの河原
あり
あの人
の長い
武者
史人
まで
ふぜ
遠田
あり
ふぜ
あの
さ

ふてきてがもわすられぬ事也
ぞ時義絹ゆかたとてもきたいしるそ
とゆられしこの物もいたのかたち
ごさんの物大らうもそひさかなどい
さもとてもんとられこひとるふ
ひらもをいるの人たべ今の是也
引きいのびたりそ特られかるこの
大きふもとへくいのびをもとくせん
とをもをもらけりきくば物ふ物形
いのもさそひへるをもとのを
ものいんもれたば嫁しそうふ
わふものいの雑兵乃ものらんゆ

[illegible]
[illegible]
「[illegible]
らんと　[illegible]
[illegible]
[illegible]

朝長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くるくるとのまれ。眠つまとさまたつら
報恩色うるやうやうの種者もと
海るれうくるの法法のよ夢のひん海色
ぐうふ牛乃くくくく蓋ちと
難乃せん法やぶ。ちやくさの見山名
法蓋。今立為方名あるぐちやいし

くん親世者。三世つちや用ーるい城
多る弟徴ある弟りやぶ学いて
なる法乃清夢 化 とくん三息 揚
し澤多雅報名 ものと
ませる動多の主風ひんおうとる
めのとる打ひ 蓋ひの昂やか

ふしぎやあの観音せん法夢とさめて
燈の影かすかなる所に数珠の音
のみ聞こえたるばかりなり
かんぶつ
南無観音菩薩
かりそめのうきよ世にあるべきやは
ものをいとはば法をもとめよ

実にか様に法華経をたもつ人
法のかずをつもるべし
ものとかすかなる
幼しかと
観音の
あれはいかにまちや消
なまのしづくと消ぬといふく燈の

[illegible]

やの[illegible]を新そ[illegible]

しをへやゞ[illegible]や時人とゞまるね法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝長

十四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

元
へようにて来られてゞたゞあふさちとゞ
のうきさくしびあふてゞりたゞ雑
兵のまいでかうんよりとゝひきく
腹一ゑしよかたに切くさ腹小ばかり
乃小さを近のだゝ来ぬるまのゝ来の
給ひてゝひきへ

月乃石ちゝ秋あんやゞくさ
上て山と移ぬん 月内 か稚小ゝ
ゝ鈴ゝ小住ゝ住ゝまんそゝぶ秋
いまゝさゝゝあの月とん上稚
ゝぶ秋兵ゝ上ゝとて山へと点い

やまぢの花のあかりに
又立出る中宿の明
行程小雲をあかぬ夏やま
横たをる山ぢ付よりくく
早月
物色秋とは葉しもとくれい
紫ゆくるれば百つまれ寒さ

まくもぐ星ふく風あれ月のよ
さしてとゝ人ひやられていづる程し
雨りやもとくひこの月と深く
やとゝ人ひい
三月安内
あふくわれある程
人の行あとを行いを
早キ
ふんいられる
秋ゆまてゆくめくやふ

ありくいの梅ちるいつかはなれ人
をへ（女）もいかに文ちるの里よりはなれ
まそいぶかふかの角ふかの秋のあらぐ
ゆくといそくの月の角のぼかはるふ
夫乃ふぶ角ふ角ふ角ふ武
いかとよしの月の面白ひとん

梅い文ちるふ乃へ
梅ち宜へとい葉乃ふ
経てそいそ（女）
ふ角せふかふ
うまつちふかや

梅い文ちるふ乃へまちて角とわ
梅ち宜へとい葉乃ふ宜ふいつ乃
経てそいそ（女）とい葉ふ乃ふ経
ふ角せふかふ（下二段）のね紙ふ角くさあ
うまつちふかや（何）とはとちふ
てる月とちくとふ角せてへのわと

[illegible]
けはひ[illegible]の横素のぞきあれば
[illegible]　物いひ木のうれ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

て秋のもれいでやうつくしひとへに
一八九一　一八九二
やがてもの思ひ色にうつりまさる風ぞ吹く
一八九三　一八九四
雲つ兒くさぶしひとりみのうきぞ
一八九五　一八九六
く　廿六　猿人はいつくよりか来る法
廿七
ふる　いせんをもとしく
師の春のそらのかの月と
廿八
春の夜ぞ秋くさけれよ春ありてはよ
廿九
秋の新の人まくは一ふるあさ
わくの紙色月とたのしみ歌見まく
猿人の秋を思ふとあくさあるへし
卅
そもそも秋を思ふとあくさめんとこそ
いのる人やん　卅一　秋の新の史料の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃外の古人のこゝろ　蕉雨白月ばかり
やうやうあけぬ　上
乃ぞ色をるべしこゝろの月のお
しきこのこゝろ　秋雨
てらしあひ　月のこゝろ
おもひ　後の後の情

山乃秋の月おもひ堪ぬ　山や青
とりて色ぬるや　紅葉　ふしぎ
やうをる月のこゝろ　白夜の女人
れるふかぎ　夕月　美人
おこやゝ　美ふかぎ　秋出　春の海
ごろ　春ごろ　物ごろ

つきうちんぐ　和色とり捨ての
女　山の色ばかり残れる　笹の葉
女　月の森人　まとゐて　笹と花
女　花ぞ　神の　森の　さもらく
の　笹の人ぞ　別　そめて　花
青　成ける　御　笹　夜
あれ　笹　捨られ　残り　捨
と　て　笹の　ぞ　笹
と　笹の　色　や
笹　や　の　色　の　中
笹　笹　花　ぬ　月
さ　笹　笹　ん

姥棄

[illegible]

サ安

[illegible]月の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ト安

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ある時の新かるる[illegible]うるてんるんの世

中の宮のれ[illegible]とあるとり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ふの秋よりこゝ
ひとへにいとゞ色深くなりゆく
深まさる色ぞ秋をしへとて
人色染る袖小萩
独り残られて左
如う着うそわうめ今もなほ濃葉山
どそ秋のうる様ま[illegible]

十一終

シテ女井レ　三井寺　曲出一拍子トル　位閑上六ヨリ五

なりひや大ひのうんせとな
しのうさぶりもかこちりひ
ゆうをぶせうと祈ゐとのこゝ
ぶまてやひかゝ月とうわぶよとか
ゆうさうたのそれとをぶとうさうひ

[illegible]そのうへにあるあと
[illegible]ひのぼりをあらはす成
[illegible]上三の
[illegible]ウヤヲかまとうまれ木あるとふ
[illegible]ウヤヲ花さくあくいとのたうろ
[illegible]
[illegible]ウ
[illegible]三三廿有
[illegible]あるとうと

やひぶとこうとやいめんれうにあう
たるうまいもとかうまりてひいいう
よつうはといいをとひなくさむう人
のひがわまさうとうかうとうをを
ひひひうと今をとこうとやいめんのうち
よわうさぬまいもとかうまりてひ

我子にあらんと思ひて三井寺へ参れと
あさてはまいもとめらるべし
あらまほしきことわざかのうぶまま
まうでて三井寺へ参りて
参ここここここ
私をあはれとおもひたまらてぐぶふ
こここここ　半内
んやいそらん　見はつかんとう
しれらうそうにてくぶざとしなつら
ひなおさうくそうとのむう
おかせはるるだらうなくそいのくやや
とうとてぶざとて秋八月十五夜
見侍りて秋宮おさるる人とう
なひとぶおくかうとれてふ出

て月とあらめくやとはゆたらひ
なしさるとのしら月のこうひとそうび
ゲ色といそくんさるもちねをも
ろうしてゆるとしとやうてしば
ろえこのひ月うけうかくしのうう
しいくうひ神とたういまゲ花の梅

ゆさと春いりうんきのひとうちす
きてがうめしをあううれ月て
うひえのうたうぐあるれおム
ちくんとべうめまへあうむうすお
らううろうれうすやうにんあうか
ゲ春をそぐ月ゆるとあ

ひなんの松風よりこそ
いとゝしけれ
いとゝしけれ
里人もとゝやくもとゝ
きもさめぬ
三井ちかくやくもとゝ
きのうえのくもだにとゝ

ゆきもとゝけゆやそこへ
八月
ふるくとゝひとゝ
乃文ゆゝ
ゆふてる月なとゝ
ゆふてる月なとゝ
ゆふてる月なとゝ
月は山風そこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
くらんとといけばひとなるわーる
ほるむりくらんとを海ひてごうひ
[illegible]
[illegible]
らんとばくくと海をきてあるとれを
さてんをまぶあるのかつてか

[illegible]
しをあるとぶるのせいんな
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人よりんなよれの家とを海をやれらの
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女　又きらぬやうなる
　　ここにリコトサシ安こと
　　引
　　雨ぬらすなり
　　のくるやぬ
　　ぬ
　　ぬ
　　

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

子七九

ゐなかなる清原人の色さのあとをたづね

文治

あるうきもべ今の物語をきくに

はるかに秋をへだてたる人の

ものつくりやう　平　ものくるしくなるこそ女

ハそうにゐるすがたりのうがさしたる

そのかたちひとそ　文治九

ゐなかなる

ハらうとぬれとぬるとうれ

ゆゑ　ゐ河ハ　ワロワキ　ハ

ゐ中ハ　ハ

ゐ中ハ　ハ

ゐ中ハ

ひくひばりくへはまくたれはなのうと
ほけ
なかかとうひくさ我はそうのあ
ぞうんを色さ
れりのたわしらひとあ
きんのはたらべ今ひちうよありな
うぶ母うへ教とはひくやや
うおろひぞ義にもとしれる

そうねなわ 廿下
ふりとを初ふうふ
すおれらこに
まくおひんうまさうまやか
くぬとうの名のうす我れ
せるじ 九九
ふ海うふやうの身
わらと人めるとを人とうあうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]やへの塩ちる
[illegible]
[illegible]のあらち道
[illegible]
[illegible]の松ぞ
[illegible]
[illegible]の浦せをこえ
[illegible]
[illegible]の浦小付
[illegible]
[illegible]せのあわ[illegible]の浦

小付くいの潜くぐ人とわ袖の名
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さあれば、まことに、かの柳小僧き
ー、酒あるとやで、高面白やい、高
やさしの様へやで、面のまろあれいあ
とくらまして、こは六条の高小
僧、盗むとわとれば、酒小引わとる
かさあらい、あれやせんが、柳小僧

きーあまへ、あれいがとんあれいせ
とれわまれ、まるあ、もろ、あれ
いとく、納まるへ、ひいあよ、
ーー、高面白小あして、とへ、
わまれ、とれ、の、湖、とて
ーー、とめ、あよる

阿漕

海の色かるる夕の海人の袖の
色深くなりまさるらむ
ふかみ草の浦風寒くなりぬれば
の浪おそくて夕なぎの
海人の袖にふかみ草
のまれぬるかな
わま数海ふかみ草
かくるるかな
阿漕の浦とわたる海と
戸渡の海ちかくて海
とあるに海とかいせる神夫
浦先をんなとうを
のあまの紙引の浦の

よるとまや海人のうらびとあま
おびゝ集るけしきうく浮ぶ波まる
わたりのわまに人ぜあまのとりと
ゆむとゝへ先祖おの恩れをかよ
つぎかてゝいまゝめくもとゆるさね
ぬかわこれと云わまゝぶまてゝ色

仏の御ちかひよるゝ無ひてあこぎ引
ぶりゝ人色かさ[illegible]ぶりゝかぶかるれわ
罪れくあこぎといまゝめあとゝ色へ
とゝ浦の沖水流めうりぎるぶれ
いせとれわまれ罪深ぶこれ若これ海
乃面かきてゝ[illegible]ぶ罪科とうるや

阿波

十七日

めいとれりとも　やはらぎの家
ハル
ねんどともわれる　眼めやかたちく
のせわも　像かくこと　若こと　色変かる家
ヤア
る晩昂　色々へ　やはらぎ　うしや　吉へ　ヤア
ウヤア
ると　鎖りくれわ　れりうれるりし
ヤア
月のあれよりうの　ねのうてして　海赤のね
ヤア

つるりつれ　契るり　無ふれ　わこれ
とへうれ　ふ三列　清と　ゆうを　人
の無人　喜わこれ　くこと　ゑんと　せめ
上ニキ地
一人ふ　ふかさ　るを　ゆうを　ゆき
や相ハ　ゆう夏の　紛しる　うれく
ヒルル
祝ふの　海波の　春れば　ゑるわく　歌

樹のやとりとゞめ絶まのえんを常盤
清こゝ色えんのよりてくうをとこう
松陰の滝ふれ多へ墨衣　月色々雲
乃隠網ゝそふ　やいとりの法を
かのうてんし初く　海色を隠る村
夢の　とやとりの　網のつゞく

ゆくへしらねとつひとこう
こゝとしるへ　よりとゝ隠ふやゝ
くかゝ雲ゝ　海つくゝ
つとり消うせ　ゝ見波を
さゝふ雲の波ふ　ゝ漁
ゝろ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]ん教[illegible]の[illegible]法の中[illegible]色一[illegible]
[illegible]ぬる花のひと[illegible]と[illegible]の袖の[illegible]
[illegible]ぬつるて光[illegible]えりて[illegible]
[illegible]わまれかるとし[illegible]出の秋かと[illegible]
[illegible]とそあるわがよと[illegible]
[illegible]流れて[illegible]のあ[illegible]

[illegible]きねよあふ[illegible]係ありと[illegible]
[illegible]青[illegible]やく[illegible]入塩の[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]小引網の沖[illegible]
[illegible]いそ[illegible]秋の[illegible]
[illegible]塩[illegible]
[illegible]ん[illegible]せの海[illegible]

ふかそこ
うら法の夢
みくまの
きけたれかい
ふ只龍とのこゝら
あまの浦のうつくしやとある
そやあらあれ
やこゝろやうう
まろろまろ
乃世りくる歌
車の葉つもり若し

めくみおのちらくも
そらしのくう
ふもの
貴のくもやり
ゆけ浦の
別しくの
毒蛇とかくまんの氷

阿漕

よ身をとろあわびをそろけいさりかい

きのせう船つなせ船のかの身燈

雲をうつ岩のほとりめいこせあ

色変かるわらの浦の泥鰌とさ

とけるやう接へよれとけるやう接へ

とろと又波の底不入かろう

十終